

病院の 実力

* 京都編 123

早期発見 進行防ぐ

いが、20〜30歳代での発症も2割程度ある。

治療の基本は抗リウマチ薬「メトトレキサート」の服用で、早期に発見して治

療を始めれば関節の破壊を抑えられる。基本的に生涯つき合う病気で、長期の治療が必要になる。表には、2017年の新規と再診患者の合計人数を示した。抗リウマチ薬だけでは症状が治まらない場合もあ

り、関節破壊を防ぐ効果がより強い生物学的製剤を使う。8種類が保険適用されており、数週間ごとに注射や点滴をする。タイプは異なるが、同等の効果がある飲み薬の「JAK阻害薬」も近年2種類登場した。

関節の破壊が進んで生活に支障を来す場合は、人工関節を入れたり、関節を一部切断したりして改善する手術が行われる。最近はずの指など小さな関節の手術が増えてきたが、難しい手術のため、積極的に行う病院はまだ少ない。

薬や手術など治療の選択肢が多いだけに、一定の経験を持つ日本リウマチ学会の専門医を受診することが望ましい。表に各医療機関の専門医数も掲載した。

全国の調査結果は「安心の設計面」に16日に掲載しました。次回は「手の外科手術」。地域版は6月24日の予定です。

関節リウマチ

今回は関節リウマチを取り上げる。

免疫が過剰に働き、関節に炎症が起きる原因不明の病気だ。あらゆる関節に痛みやこわばりが出て、進行すると骨などが破壊されていく。患者は約70万人といわれ、50歳前後の発症が多

病院の実力「関節リウマチ」

医療機関別2017年治療実績

(読売新聞調べ)

医療機関名	新規・再診患者(人)	生物学的製剤などを使用(人)	関節手術件(人)	専門医(人)
石川県				
金沢大	467	208	12	14
県立中央	387	77	9	3
金沢医大	300	100	7	3
福井県				
福井県立	2030	41	11	4
福井赤十字	1996	179	17	4
福井大	882	118	9	4
福井総合病院	823	256	23	3
県済生会	486	34	15	2
国・あわら	117	57	0	1
京都府				
府立医大	1193	360	52	13
京都第一赤十字	1030	280	44	4
京都大	985	454	68	13
京都市立	824	18	6	2
京都下鴨	740	236	89	2
丹後中央	362	—	0	1

「国・」は国立病院機構。「—」は無回答または不明。滋賀県の医療機関からは回答がなかった。